行　政

1　月寒、平岸、豊平村の誕生
2　戸長役場制度の発足
3　町制施行により豊平町へ
4　豊平町の一部が札幌区へ編入
5　昭和初期の豊平町の行政
6　戦後の豊平町の行政
7　札幌市と豊平町の合併
8　区制施行により豊平区が誕生
9　清田区の分区
10　新しい豊平区

1　月寒、平岸、豊平村の誕生

明治２（1869）年、明治政府は北海道に開拓使を置き、本府建設の候補地探しと豊平の開墾を行い、やがて、札幌に本府が置かれました。

明治４（1871）年以降、募集した開拓移民が月寒、平岸、白石、手稲などに次々と移住してきました。月寒村に盛岡（岩手）県農民 44 戸、185 人（『開拓使事業報告書』では、43 戸、185 人となっている）が、そして、平岸村に胆沢（岩手）県農民や仙台藩士など 65 戸（62 戸の説もある）、203 人が移住しています。

やがて、移民による村落が形づくられ、村役人が置かれるようになりました。名主、組頭、百姓代の村三役制度が村々に広がっていきます。明治５（1872）年４月に戸籍が作られるようになり、これらの仕事と村をまとめるため、開拓使は戸長、副戸長を任命しました。この年、月寒村、平岸村が誕生しました。

一方、豊平村の誕生は、開拓使の「移民履歴調」によれば、明治６（1873）年、ときの松本十郎大判官により豊平に村落を築くことが計画され、土地の払い下げを戸長などに願い出るよう勧めています。

やがて、土地の払い下げを受けた石川県からの農民 10 数軒が移住し、この集落は加賀開墾地と呼ばれるようになりました。明治７（1874）年、開拓使布令によって豊平村は、「豊平橋ヨリ月寒村下迄新道筋（現在の国道 36 号）左右」の地域に設定すると、正式に全国に告示され、豊平村が誕生しました。

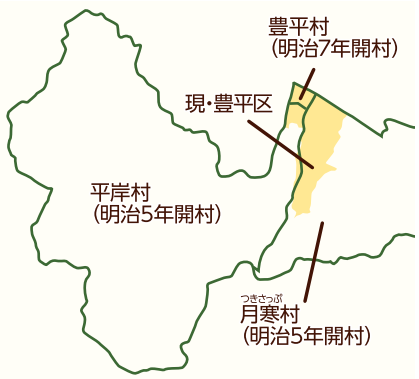

図 -1　月寒村・平岸村・豊平村

2　戸長役場制度の発足

①上白石村に戸長役場を置く

明治９（1876）年、北海道は大区と小区に分けた大小区制が敷かれ、札幌郡は第一大区と呼ばれていました。豊平、月寒、平岸、白石、上白石の５村は第五小区と呼ばれ、一つの小さな区にまとめられました。そして、小区ごとに戸長が置かれ村々を治めていました。

やがて、明治 12（1879）年には、郡区町村制が敷かれるようになりました。郡には郡長、その下には新しい組織による戸長役場が置かれましたが、まだ役場の事務所はありませんでした。この戸長役場制度は、２級町村制が敷かれるまで存続しました。この年、豊平村も含まれた札幌郡全部が札幌区となり、札幌区役所ができました。翌 13（1880）年、豊平村、月寒村、平岸村、白石村、上白石村の５村を管轄する戸長役場（初代戸長・片倉景範が任命）が、上白石村に置かれました。

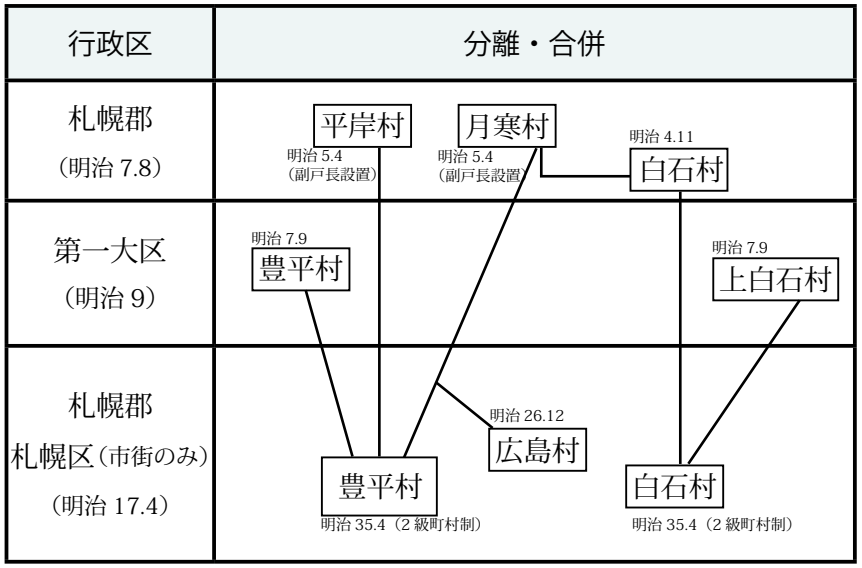

図 -2　諸村の変遷図

②豊平村に戸長役場が移転

明治 15（1882）年には北海道開拓使が廃止され、北海道は札幌、函館、根室の３県に分割されました。同 17（1884）年、札幌の中心は札幌区役所によって治められ、札幌周辺の村々をまとめる郡区役所ができ、豊平村も郡区役所の管轄（かんかつ）に入ることになりました。

明治 18（1885）年、上白石村にあった戸長役場は豊平村に移ったので、豊平村は、月寒村、平岸村、白石村、上白石村の村々の行政の中心となります。翌 19（1886）年、札幌、函館、根室３県が廃止になり、北海道庁が設置されました。その後、明治 26（1893）年、月寒村のうち大曲（おおまがり）以東が分離し、広島村（現在の北広島市）が新設されました。同 30（1897）年には上記５村のうち白石村、上白石村の２村が分離独立し、残った月寒村、平岸村、豊平村の３村は、豊平戸長役場の管轄に置かれることになりました。

明治 35（1902）年４月、２級町村制が敷かれ、豊平村、月寒村、平岸村の３村が合併し、新しい豊平村が誕生しました。当時の人口は８千余人で、役場の職員は村長を含めてわずか６人でした。村役場の仕事は、予算や戸籍、教育、衛生の他、兵事や社寺宗教などの事務を行っていました。この年の７月、第１回村会議員選挙が行われ、12 人の議員が初当選しました。それまでは、名誉職の村総代人が村の代表として政治に参加していました。ここに、後の豊平町の基礎が形づくられることになります。

図 -3　３村の合併

3　町制施行により豊平町へ

明治 40（1907）年４月、豊平村は琴似村、札幌村などの村々よりも早く、１級町村となりました。当時、道庁は地方費の削減（さくげん）と行政整理の目的で、２級町村から１級町村への昇格を推進していました。１級町村となるためには、戸数が１千戸以上、人口が５千人以上、公民権のある者 150 人以上という条件がありました。これらの条件にもかかわらず、早い時期に豊平に町制が敷かれたのは、村内に争いごとがなく、良くまとまっていたことがあったようです。そして、その翌年の 41（1908）年６月に町制が施行され、豊平村は豊平町となりました。

4　豊平町の一部が札幌区へ編入（へんにゅう）

一方、明治 43（1910）年４月、行政区の変更のため豊平町大字（おおあざ）豊平村の一部（現在の豊平地区）が札幌区に編入されることになりました。このため、豊平村豊平 18 番地（現在の豊平４条６丁目）にあった豊平町役場を大字月寒村 32 番地(現在の月寒西１条６丁目）に移転することになりました。

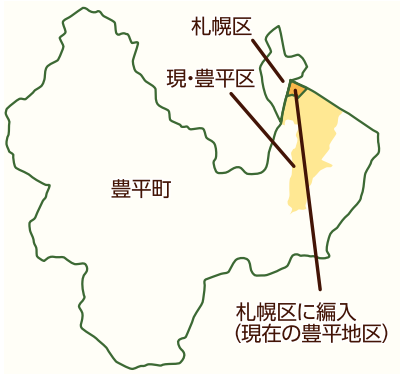

図 -4　豊平町の一部が札幌区に編入

その後、大正９（1920）年 11 月に役場庁舎を大きくし、開町 50 周年記念式典を開催しました。大正 10（1921）年には札幌支庁は石狩支庁に改称され、豊平町もその管轄に入ることになります。

5　昭和初期の豊平町の行政

昭和３（1928）年５月、新しい選挙制度のもと、初めて行われた豊平町会議員選挙の有権者数は 1,950 人で、前回（大正 13 年）の 386 人に比べて、およそ５倍になりました。また、議員定数も前回の 20 人から 24 人に増えました。昭和９（1934）年には町役場庁舎が新築され、工事費（役場営繕費（えいぜん））は、およそ１万３千円（町の総予算 16 万円）に上りま

した。役場の職員数は、松崎亀二町長を含めて 15 人で、ほかに 34 人の区長（現在の区長とは異なる）がいました。

道庁は、行政整理の一環として、市町村に字名変更の指導を行っていました。その結果、昭和 19（1944）年 12 月に豊平町大字豊平村、月寒村、平岸村の大字が廃止され、新たに 24 の地名に改称されることになりました。この時から「つきさっぷ」は「つきさむ」と呼ばれるようになりました。

6　戦後の豊平町の行政

終戦後の昭和 22（1947）年、豊平町役場は、清田、平岸、中の島、真駒内、石山、藤野、簾舞、定山渓地区に 8 カ所（昭和 25 年に平岸、石山、定山渓の 3 カ所に縮小）の出張所を設けました。この当時の豊平町は、現在の豊平区の区域（豊平地区を除く）の他に、南区、清田区の区域を含んでいました。

同年、初の公選選挙が行われ、第 5 代の大久保清太郎町長が選ばれました。昭和 23（1948）年 3 月、豊平町自治体警察が発足。しばらくは、北海道警察との二重構造で運営されていましたが、その後、北海道警察に統合されることになりました。また、同年 4 月、豊平町消防本部と豊平町消防団が発足しています。翌 24（1949）年、町の総予算は、はじめて 1 億円を突破（1 億 2 千万円）しました。このときの町の人口は、29,047 人でした。昭和 31（1956）年 2 月、豊平町役場は月寒村 32 番地（現在の月寒西 1 条 6 丁目）から月寒 536 番地（現在の月寒中央通 7 丁目）に移転しました。

7　札幌市と豊平町の合併

①合併に向けた動き

昭和 32（1957）年 6 月 22 日、札幌市と豊平町の早期合併を公約に掲げた本間義孝氏が、第 8 代豊平町長に就任しました。札幌市と豊平町との合併の話は、すでに、前町長のころから持ち上がっており、実に 10 年来の課題でした。

本間町長は就任後、何度も札幌市との交渉を重ね、また、町民大会を開くなど合併に向けて準備を進めていました。そして、翌 33（1958）年 3 月 12 日に開会された第 1 回定例町議会では、合併調査特別委員会の中間報告がなされ、「昭和 34 年 3 月の合併が適当と認める」と、全会一致で承認されました。

②豊平町を市に昇格させようとする動き

しかし、それから 1 カ月後の 4 月 22 日から 23 日にかけて開かれた第 3 回臨時町議会で、合併に反対する議員から「豊平町を市とすることの申請について」という案が出されました。その趣旨は、豊平町が市になったら、札幌市と対等の立場になって、今よりも有利に合併交渉が進められるというものでした。これは表向きの理由で、実際は合併引き延ばしを図ったものと考えられます。

審議の結果、賛成 13、反対 12 と 1 票の小差で可決され、議場は騒然となりました。ただちに町長は、議会の決定に反対する意思を表明しました。翌 24 日付の北海道新聞の見出しは、「町議会の解散も。豊平町の“市昇格”問題化　本間町長、議決執行の意思なし」と報じています。

③町政が混乱、町長、議員辞任騒動

そして、同じく昭和 33（1958）年の 12 月 23 日、第 4 回定例町議会に、町長から札幌市との合併案が提出されました。それは、10 年余りにわたる合併問題の論議を経て、初めて町長側から提案されるものでした。しかし、この案は賛成 12、反対 16 で否決されました。そのため、町長と合併に賛成した議員は、議長に辞職願いを提出しましたが、元町長や町民代表らの説得に応じて辞職願いを撤回。2 週間以上続いた町政の空白状態は正常に戻りました。

やがて、昭和 34（1959）年 1 月の後半、各地区の町内会婦人部によ

る合併実現にむけた大集会が開かれ、また議会に請願書が次々と提出されました。しかし、2月14日の第4回臨時町議会での採択の結果は、賛成12、反対14で、再度、札幌市との合併案は否決されました。

④合併に向けて大詰めを迎える

ところが、昭和34(1959)年4月に行われた町議会議員の改選選挙では、合併促進派20人、慎重派10人が当選。一転して合併促進派が議席の3分の2を占め、合併に向けて大きな弾みがつきました。6月には合併の時期、方法などについての調査、研究を目的とした「豊平町札幌市合併特別委員会」が町議会に設置され、昭和36（1961）年4月まで、実に35回もの審議が重ねられました。

また、昭和35（1960）年12月、札幌市議会においても合併調査特別委員会が設けられ、豊平町と札幌市との合同会議が持たれるなど、両者の交渉も大詰めを迎えることになりました。

写真 -1　月寒会館前に詰めかけた人々
（昭和36年3月10日）

⑤札幌市と豊平町がついに合併

昭和36(1961)年3月10日、第1回定例町議会、本会議初日の午前7時。議場となる月寒会館前は、反対派の町民約300～400人が集合しピケ（英語のpicket：見張り、監視員の意味）を張り、町長、議長、議員の入場を阻止するという異常事態が起こりました。町長はやむなく警察の出動を要請し、ピケを排除。その日の午後4時40分、ようやく本会議の開会が宣言されました。

そして、3月14日、満員に膨れ上がった傍聴席と賛成派、反対派、双方の町民約500人が議場の外で見守る中、記名投票が行われ、午後4時20分、賛成18、反対10の賛成多数で、「豊平町を廃し、札幌市に編

コラム：豊平町役場庁舎の移りかわり

（現在の月寒西1条6丁目、月寒児童会館付近）

写真 -2　明治43年に新築されたもの

写真 -3　大正9年に改築されたもの

写真 -4　昭和9年に新築されたもの

入する議案」が可決されました。一方、同日の午後５時25分札幌市議会でも全員賛成で議決され、町を二分した合併問題は、長い道のりを経てようやく決着を見ました。

５月１日、午前９時30分。札幌市役所において原田與作（はらだよさく）市長と本間町長が事務引継ぎの署名を行い、合併の手続きを終えました。ここに、豊平町は札幌市に編入され合併が成立するとともに、明治７年の開村以来87年間にわたった豊平町の歴史は幕を閉じたのです。町役場は、札幌市役所月寒支所と改称され、豊平、美園、平岸、中の島、真駒内、石山、定山渓地区に出張所が置かれました。

写真 -5　公文書に署名を交わす、当時の原田札幌市長（右）と本間豊平町長（左）

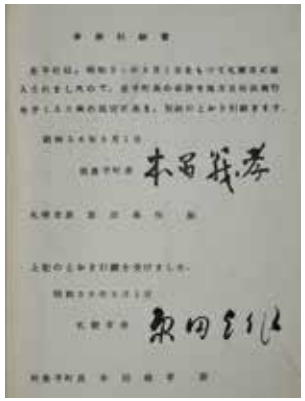

写真 -6　事務引継書

8　区制施行により豊平区が誕生

昭和47（1972）年２月、アジアで初めての冬季オリンピック大会が札幌で開催されました。そして、この年の４月、札幌市は福岡市、川崎市とともに政令指定都市の仲間入りを果たしました。同時に区制が敷かれ、豊平区を含む７区が誕生し、それぞれの区に区役所が置かれ、各区の特色を生かした、きめ細やかな行政が行われるようになりました。

写真 -7　区役所開設記念祝賀会の様子

豊平区役所仮庁舎は、月寒中央通７丁目（現在のつきさっぷ中央公園付近）にあった旧札幌市役所月寒支所に開設されました。

写真 -8　建設中の区役所新庁舎（昭和48年）

区の行政組織は、区長、区次長の下に総務部、税務部、土木部、福祉事務所の４部（現在の機構と異なる）が置かれ、区政がスタートしました。発足当初の区内の人口は151,101人、世帯数は48,447世帯でした。

さらに、昭和49（1974）年２月、豊平区役所が現在の平岸６条10丁目に移転、新庁舎が落成し、本格的に業務が開始されました。

昭和52（1977）年７月には区制５周年を記念して、豊平区のシンボルマークが決まりました。これは、区民に作品を募集し、100点余りの応募作品から投票などで選ばれたものです。

平成４（1992）年８月には、花とふれあいの街を目指す「とよひらHANA-LAND（はならんど）」事業の取り組みの一つとして、ペチュニアが豊平区の花に制定されました。毎年５月になると、歩道の植樹升などに植えられ、街に彩りを加えています。

図 -5
シンボルマーク。豊平区の「と」と「リンゴ」を表している

写真 -9
ペチュニア。ナス科ペチュニア属の一年草。別名ツクバネアサガオ

9　清田区の分区

区制が施行された後も、豊平区は順調に発展を遂(と)げ、平成８（1996）年８月、区内の人口がついに 30 万人を突破。全国の政令指定都市の区の中で、最も人口の多い区に成長しました。このような著しい人口増加などにより、平成９（1997）年 11 月４日、豊平区から月寒東の一部と、北野、清田、有明以東の地区が分かれ、新たに清田区が誕生しました。分区によって、豊平区の面積は 46.35㎢（清田区は 59.70㎢）、人口は 199,805 人、世帯数は 92,530 世帯となりました。

10　新しい豊平区

平成に入っても、発展を続ける豊平区。平成６（1994）年に地下鉄東豊線が福住まで延長され、平成 13（2001）年には、札幌ドームが羊ケ丘に完成。翌年には、サッカーのワールドカップ大会が開催され、会場はサッカーファンの熱気に包まれました。その後、平成 15（2003）年には「北海道日本ハムファイターズ」の本拠地球場となることが決まり、北広島市に移転した令和５（2023）年まで、多くの野球ファンが訪れました。また、FIS ノルディックスキー世界選手権札幌大会や冬季アジア札幌大会、ラグビーのワールドカップ大会が開催された他、各種のスポーツ・文化イベントが開催され、北海道のメイン・ドームとして定着しています。

写真 -10　札幌ドーム

写真 -11　カーリング場
（どうぎんカーリングスタジアム）

この他、区内には平成 24（2012）年に通年型のカーリング場、平成 30（2018）年に世界規模の大会が開催できる平岸庭球場がオープンしました。平成 12（2000）年に開設された北海道立総合体育センターを含め、大規模なスポーツ施設が多い区となりました。

平成 30（2018）年に、北海道胆振東部地震が発生。豊平区は震度５弱を観測し、北海道全域で停電が発生したため、区民の生活に混乱が生じました。また、区内の一部地域では液状化現象による住宅への被害も見られました。

令和２（2020）年に、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、感染拡大を防止するため、イベントや地域活動などが軒並み中止となり、区民生活に影響を及ぼしました。このコロナ禍は３年余り続き、令和５（2023）年には感染症の影響が減少したため、イベントや地域活動などがコロナ禍前の状態に戻りました。

豊平区のキャラクター「こりん」と「めーたん」が誕生したのは、平成 16（2004）年。豊平区のイメージを表すものとして「りんご」と「ひつじ」をモチーフに、「豊平区の魅力を発見する探偵」として誕生しました。「こりん」と「めーたん」という愛称は区民から募集し決められたものです。「こりん」と「めーたん」は誕生後、区のさまざまなイベントや冊子などに登場し、広く区民に愛されるキャラクターに成長しています。

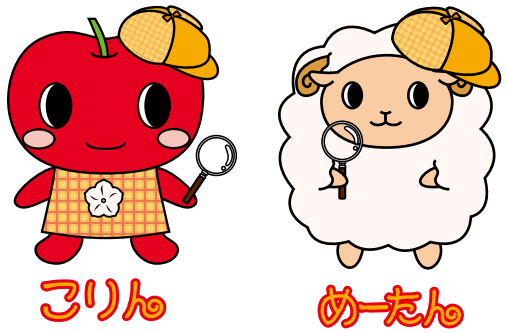

図 -6　豊平区キャラクター
「こりん」と「めーたん」

区制 50 周年となった令和４（2022）年４月には、人口は 225,836 人、世帯数は 120,653 世帯となり、分区後の約 25 年間で人口は 1.13 倍、世帯数は 1.3 倍増加しています。

コラム：「こりん」と「めーたん」

「こりん」と「めーたん」は、豊平区への愛着をさらに深めてもらおうと誕生した豊平区のキャラクターです。誕生までには、区内在住の小学生など、たくさんの区民の皆さんの協力がありました。

平成 15（2003）年に、区内の小学校を対象に豊平区のキャラクターイメージを募集。その後、これらのキャラクターイメージをさらに具体化するため、区役所近隣小学校（東山小学校、美園小学校、南月寒小学校）に通う児童と札幌市高等専門学校（現在の札幌市立大学）の学生によって構成された「豊平区イメージキャラクター制作委員会」で検討が重ねられ、「豊平区の魅力を発見する探偵」で「りんご」と「ひつじ」をモチーフにしたキャラクター像が出来上がりました。平成 16（2004）年 1 月に広報さっぽろなどでキャラクターを発表。併せて愛称を募集し 1,003 点の応募がありました。同年 3 月、「豊平区キャラクター愛称選考委員会」が開かれ、その選考の結果、愛称は「こりん」と「めーたん」に決まり、4 月 7 日には、区民センターで愛称発表セレモニーが行われました。

誕生から 20 年、区の魅力を発見して伝えるキャラクターとして、区民に親しまれています。

写真 -12　リンゴ並木のリンゴを円山動物園へ
贈呈するこりんとめーたん（令和 5 年）